

# 神出鬼没 何処にでも顔を それが仕事かそれとも他になにか？

N 1 9

2010. 3. 13

J R東海労東二運分会

## 乗務員のみなさん

運転士が喫煙や眼鏡を理由に、職場から追い出されました。この事態に新聞やテレビだけではなく、国土交通省も動いたことは記憶に新しいところです。会社が流したのだからマスコミはともかく、国交省は会社の想定よりもはるかに大胆に動いたようです。噂ですから確かなことは言えませんが、特に、眼鏡に関しては運輸局（国交省かも？）が東二輪＝指導科に直接、聞き取りをしたそうです。慌てたのは指導科長だけでなく、所長以下の全管理者だったとか。

昨年末の国交省の保安監査は事前に準備万端整えて指導科・東二輪・J R東海会社の社員管理の万全さを、豊富な書面を基に説明し難なくパスしました。せっかくなので、少しだけ（所内誌1月号から）紹介します。指導科長が「法令遵守精神」と題して書いていますが、「要求される書面を次々に提示し説明」、と自慢げに紹介しています。ちなみに提示した書面は、「教育訓練時間」「教育訓練の実績と管理」「医学・運転適正検査の管理」「知識・技能の確認の方法や管理」等々です。そして最後に「事前に資料を準備してくださった管理者の方、貴重なご助言をくださった非現業の方、多くの方々のご協力が無事パスすることができました」と閉めています。なあ～んだ科長ひとりの良いとこ取りだ、と思わせる報告でした。「無事パス」程度なのです。

再度、噂ですが、今回の聞き取りは簡単にはパス出来なかったようで、要求される書面は前回の焼き直しだし、完璧だったはずの法令遵守精神は説得力を持たず、年末の成果が全て無になった、とか。

出向させられた運転士さんには申し訳ありませんが、法令違反を見過ごしてきたことの責任は所長以下の管理者全員の問題です。なかでも指導科長の責任は大です。だから私たちは、処分と出向は理不尽だし、責任を社員にだけに押しつけるものだと断言します。

これら一連の、管理者の不祥事の具体的責任はやはり指導科長なのでしょう。だからか、と思われるように最近の指導科長はいろいろなところに顔を出します。まさに神出鬼没で私服添乗や陰から突然は日常茶飯事で、最近は言葉遣いにまでも顔と口を出します。確かにそれは指導科長の仕事ですが、それにしても行動に焦りが見えます。他になにか理由があるとすれば、車両所の管理者よりも前に処分でも出たのではと同情します。失地回復に躍起なのか、と想像してしまいます。

「蒼白の 顔に哀れさ 滲みでて」 C D 頑爺